

# 「子育てひろば研修セミナー」 <茨城開催> 『ひろばがつなぐ、いばらきの子育て』

## <開催概要>

- 開催日 平成 20 年 10 月 4 日(土)10:00~16:00
- 会場 つくば国際会議場エポカルつくば  
(茨城県つくば市竹園 2-20-3)
- 主催 財団法人こども未来財団・NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援 厚生労働省・(社福)全国社会福祉協議会・茨城県・つくば市
- 協力 NPO 法人ままとーん
- 参加者 134 名(男性 11 名・女性 123 名)  
(行政 34 名、NPO・任意団体 34 名、他団体 51 名、その他 15 名)

## <開催趣旨>

平成 19 年度より、つどいの広場事業、地域子育て支援センター事業を統合し、児童館などのスペースも活用しながら、地域子育て支援拠点事業(ひろば型、センター型、児童館型)が新たに再編されました。そこで行政とともに地域における子育て支援拠点間の連携を図りながら、子育てひろばの意義と役割を検証します。また、ひろばスタッフ一人ひとりが日頃の活動を振り返り、見識を深め、スキルアップに寄与することを目的とします。

## <プログラム趣旨>

本セミナーでは、子育て支援拠点の役割について考え、県内の多彩な子育て支援拠点(地域子育て支援センター、児童館、つどいの広場など)がお互いの活動を知ることで、それぞれのひろばの実践に活かせるようなつながりを紡ぐことを目的とします。

## <主催者挨拶>

財団法人こども未来財団調査研究部長 前中寛之さんより主催者あいさつがありました。



前中寛之さん

## <開催地からの挨拶>

茨城県保健福祉部子ども家庭課少子化対策室室長補佐 塙伸一さん



塙伸一さん

## <プログラム1【基調報告】地域子育て支援拠点事業の概要と展望>

ひろばの立ち上げを検討するときには、国の子育て支援施策の現状を学ぶことも必要な要素のひとつ。

厚生労働省少子化対策企画室 赤塚孝行さんを講師として、国としての今後の子育て支援施策の考え方、児童福祉法改正も視野に入れた最新情報を学ぶことができる場になりました。



赤塚孝行さん

### 【参加者から】

- ・最新の情報をきくことができ役立ちました。
- ・子育ての現状と国がこれからどのように少子化、子育て支援をしたいかがわかりました。もっと補助金の支援の具体的なことが知りたいと思いました。

## <プログラム2【基調講演】テーマ「子育てひろばのこれから」～親の力を引き出すために、子育てひろばができること～>

横浜市、山形市、埼玉県新座市にある「ひろば」のプレゼンテーションがあり、それぞれの先進的な事例に対する参加者の関心は高く、それぞれの「ひろば」へ持ち帰れるような運営のヒントを得られる場でした。

ディスカッションでは、「ひろば」をただのサービス・イベントの場に終わらせず、親の力を引き出す場所にするための、試み、体験、可能性について、それぞれの考えや事例が述べられましたが、セミナー終了後のアンケートの回答からも、ひろばを運営する参加者にとって「親の力をひき出す」というテーマは共通の課題であるということが伺われました。



(写真左から)

### 【コーディネーター】

鷺田美加さん(NPO法人ままとーん)

### 【パネリスト】

奥山千鶴子さん(NPO法人びーのびーの)

野口比呂美さん(NPO法人やまがた育児サークルランド)

坂本純子さん(NPO法人新座子育てネットワーク)

### 【参加者から】

- ・それぞれ3人の実践、ご意見、とても勉強になりました。皆様すばらしい方ですね。パワーをいただきました。
- ・時間がなくゆっくりきくことができずに残念。それぞれの型のひろばがあり、参考になったが、もっと深い所まで話をききたかった。
- ・親の力を引き出すために広場として何ができるのか、私にとっても課題です。自主サークルになるまでには大きなステップが必要なので、「あーべ」の野口さんのお話がとても共感できました。
- ・法人なら、官や地域と連携をとりながら運営していく大事さ。母親ボランティアをどう育てていくかも興味深かった

### <プログラム3【ランチタイム交流会】>

セミナーで初めて出会う参加者どうしが交流できるよう、また、ワークショップに初めて参加する参加者のために、ワークショップ(ポストイット方式)の練習を兼ねて自己紹介を行いました。参加者間でお互いのことを話し合う機会になりました。

### 【参加者から】

- ・食べながらで忙しかったけれど、各職場のいろいろなお話が聞けたことはとてもよかった。
- ・ランチタイムの今回のような使い方が初めてでしたので、新鮮にも思いましたが、ちょっと戸惑いました。でも、有効な使い方にヒントを頂きました。
- ・分科会に入る前の心の「緊張感」がゆるみ、楽しく分科会に出席できました。

### <プログラム4>

#### <分科会1【基礎編】子育てひろばのいろんなカタチ>

事例報告では、三浦さん(NPO法人鹿嶋子育てグループ2005)からはひろばにおける「ひとり(スタッフ)対ひとり(母親)の関わり」の事例、その関係のなかで、母親にいかに寄り添えるかについてお話があり、川澄さん(大宮聖愛保育園子育て支援センター)からはひろば(支援センター)に通うある母親の変化から、ひろばとそのスタッフの存在が子育て中の母親にとってどのような心、生活の拠りどころになりうるかについてお話がありました。どちらの事例でもひろばにやって来る親子一人ひとりに丁寧に接していくことの大切さが話されました。



(写真右より)奥山千鶴子さん、三浦ひろみさん、川澄明美さん

ワークショップでは、「子育てひろばにやってくる親(子)の特徴(どんなことを必要としてひろばに来ているのだろうか?)」をグループごとに話し合っ発表し、その中でも多かった「友達を作りたい親・グループになってしまう親」「転勤族・核家族」「外国人」「第一子で子どもとの関わりが初めての親」「育てにくい子で子育てに対して不安を持っている親」「情報が欲しい親」に対してそれぞれのひろばが行っている活動や工夫、解決案等を話し合いました。それぞれ団体の地域や規模は違っていても、抱えている悩み、課題等は同じだということが認識でき、またそれについての情報交換を行いました。



【コーディネーター】奥山千鶴子さん



参加者ワークショップの様子

### 【参加者から】

- ・基礎編ながら、問題提供が多く、もう少し皆さんと話をしたかったようにも思います。自分だけ悩んでいないこともわかり安心しました。
- ・楽しく話し合えました。各ひろばで行っている色々な方法が聞いてよかった。どこのひろばのお母さん達も同じようなタイプの人たちが利用している。悩めるお母さん達は、相談内容も同じ。共感して寄り添うことが必要。

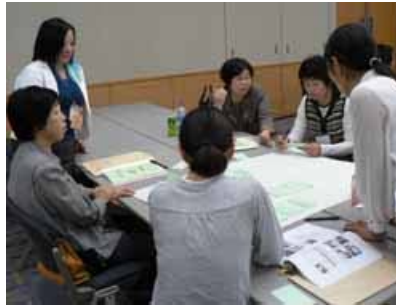
## <分科会2 [実践編]課題克服とスタッフのスキルアップ>

喜多路江さん（つくば市地域子育て支援センター）、森田多美子さん（NPO法人水戸こどもの劇場）からの事例報告、ワークショップを通じて、各々の「ひろばスタッフ」が共通の課題を抱えているということが認識でき、ひろばの運営にあたり、いくつかのポイントを共有することができました。「子どもも大人も楽しめる場所として、ひろばの説明をすることが大切（危険回避、サービスを受ける場所ではない、など）」「一人で来た参加者がとけこめるようにスタッフは他の参加者とのパイプ役をすること」「ひろばに出て来られない人への支援方法（電話相談、民生委員利用して成功した例）」「参加者が続けて来られるようなひろば」「問題が起きたとき(子どもどうしのケンカなど)に解決できるかどうかは、参加者とスタッフの信頼関係に依るところが大きい」「自由意志で参加できるひろばでは、問題が起きたときのフォローが難しい(もう来ないで終わってしまう)ので、スタッフのスキルアップが必要で、そのためにはスタッフ内での話し合いを綿密にすること(打合せと反省)」など。

まとめとして、課題克服のためにはひろばのスタッフが参加者と信頼関係を築くこと、またスタッフ内での情報共有、打合せや反省などが有効である、ということが挙げられました。



【コーディネーター】  
野口比呂美さん



喜多路江さん（写真奥中央）を  
交えてのグループワーク



森田多美子さん（写真右奥）を  
交えてのグループワーク

### 【参加者から】

- ・現場の声が沢山聞こえて、とても参考になりました。また、同じ悩み等共有することができ、良かったと思います。みなさんは話しやすい方で話が活発にでき楽しかったです
- ・それぞれの問題点を交換し、共通の悩みがあることにほっとした。
- ・同じ悩みをかかえている支援スタッフと様々な意見が聞けて勉強になりました。
- ・情報交換の場になり、大変参考になりました。

## <分科会3 [応用編]地域とつながる子育てひろば運営>

事例報告では、山本哲士さん（守谷市市民交流プラザ）からは「官民が協働・連携することによって今までとは違った支援が可能になる」ということ、高島京子さん（つくば市子育て支援室）からは「行政との連携によってつくば市の拠点事業の充実を図り、支援施設を多くの親子に利用してもらえるようにできる」ということ、鷲田美加さん（NPO法人ままと一ん）からは「地域とつながることによって自分たちの視野が広がり、新たな可能性が生まれた」ということについてお話があり、連携することによってどのような可能性が開けるのかを知る場になりました。

ワークショップでは、連携の大切さ・連携によって解決できる問題などを参加者とともに議論しました。

まとめとして、コーディネーターからは、連携するには「活動が外に対して開かれていること」「個性を持つこと、個性にこだわらず広がっていくこと」が大切であるというお話がありました。



【コーディネーター】  
坂本純子さん(写真左)



山本哲士さん(写真奥中央)を  
交えてのグループワーク



鷲田美加さん(写真左)と  
高島京子さん(同右)

### 【参加者から】

- ・様々な分野で活躍している方と情報交換しながら分科会テーマの問題点や課題の話が出来たのは良かったです。キーワードは連携の場においても、まずは相手を「知る」ということがよくわかりました。
- ・自分のやっていることが、はっきり出たように思います。有効な簡単な方法で話し合いながら、意見交換が出来たので、良かったと思いました。坂本さんのコメントが良かったです。



分科会終了後、各分科会の成果を貼りだし、他の分科会参加者にも内容を共有してもらいました。

### <プログラム5【全体会】(分科会の報告とまとめ)>

各分科会の事例報告者から、各分科会について報告がありました。

第1分科会からは川澄明美さん（大宮聖愛保育園子育て支援センター）より、転勤家族や第一子の親、外国人、核家族などさまざまなケースにどう対応したらよいかという議論が持たれ、それについて情報の提供や共有ができたこと、またひろばが相互に情報の提供や共有を行うことが大切であることが報告されました。

第2分科会からは喜多路江さん（つくば市地域子育て支援センター）より、ひろばの設備、ほっとする場づくり、親とスタッフの信頼関係について、どのようにひろばスタッフがスキルアップしてゆくか、そのまとめとして大切なのは、連携・理解・話し合いによるスキルアップであるということが提示されました。

第3分科会からは山本哲士さん（守谷市市民交流プラザ）より、地域とつながる子育て支援について、行政とのつながり、企業との連携、人とのつながり、学校とのつながりについて報告があり、それには交流・相談・連携・情報共有が必要だということが話されました。



川澄明美さん



喜多路江さん



山本哲士さん

また、今回のセミナーで知り合った参加者どうしの交流の機会として、実行委員会から「1年後の交流会の開催」について提案があり、参加者の同意を得ました。今後地域のなかで「ひろば運営者の連携の場」を育てていくきっかけをつくることができたのは、ひとつの成果でした。



### 【参加者から】

- ・参加してよかったです。スタッフが外に研修に出る機会があまりなかったので、よい経験になった。
- ・主催者の方や厚労省の方が途中で帰らずセミナーのはじめから終わりまでいらしたのが印象的でした。またこういうセミナーがあれば参加したい。1年後のネットワークの会を楽しみにしています。実行委員会のみなさま、ご準備ありがとうございました。
- ・いろんなキーワードが出ました。地域に持ち帰り、考え、行動していきたいと思います。いろいろヒントがありおもしろかったと思います。